

◆自由民主党 「日本国憲法改正草案」 前文より

日本国民は、国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り、基本的人権を尊重するとともに、和を尊び、家族や社会全体が互いに助け合って国家を形成する。

第二章 安全保障 国防軍 第九条の二 3

国防軍は…国際社会の平和と安全を確保するため国際的に協調して行われる活動及び公の秩序を維持し…

◆国体の本義（昭和12年 文部省） 第一 大日本国体 四、和と「まこと」より

更に進んで、この和は、如何なる集団生活の間にも実現せられねばならない。役所に勤めるもの、会社に働くもの、皆共々に和の道に従はねばならぬ。夫々の集団には、上に立つものがをり、下に働くものがある。それら各々が分を守ることによつて集団の和は得られる。分を守るとは、夫々の有する位置に於て、定まつた職分を最も忠実につとめることであつて、それによつて上は下に扶けられ、下は上に愛せられ、又同業互に相和して、そこに美しき和が現れ、創造が行はれる。

このことは、又郷党に於ても国家に於ても同様である。国の和が実現せられるためには、国民各々がその分を竭くし、分を發揚するより外はない。身分の高いもの、低いもの、富んだもの、貧しいもの、朝野・公私その他農工商等、相互に自己に執著して対立をこととせず、一に和を以て本とすべきである。

◆日本国憲法 前文より

われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

(中略)

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

◆無防備平和条例運動 ジュネーブ諸条約追加第1議定書第59条

◎中川村 HP ⇒ 「村長の部屋」 ⇒ 「村長からのメッセージ」 & 「村長への手紙」

◎個人ホームページ [www.dia.janis.or.jp/~soga/](http://www.dia.janis.or.jp/~soga/)

『月を差す指はどれか』…釈尊の教え（無常=無我=縁起）を「仏教」から抽出する。

## 村議会6月定例会 「国旗と国歌について村長の認識は」との一般質問を頂きました。

中川村議会6月定例会で、高橋昭夫議員から、「国旗と国歌について村長の認識は」という一般質問を頂いた。

一問一答方式のため、受け答えはやりとりの流れに応じた“アドリブ”になっていき、正確に再現することは難しいので、頂いた通告と私の答弁原稿を以下に掲載する。

### <一般質問通告>

小・中学校の入学式や、卒業式の席で、村長は（壇上に上る際、降りる際に）国旗に礼をされていないように思います。このことについて村長のお考えをお聞きしたい。

### <答弁原稿>

たいへんありがたい質問を頂戴しました。ご質問の件については、村民の皆さん方の中にも、いろいろ想像して様々に解釈しておられる方がおられるかもしれません。説明するよい機会を与えていただきました。感謝申し上げます。

私は、日本を誇りにできる国、自慢できる国にしたいと熱望しています。日本人だけではなく、世界中の人々から尊敬され、愛される国になって欲しい。

それはどのような国かということ、国民を大切にし、日本と外国の自然や文化を大切にし、外国の人々に対しても、貧困や搾取や抑圧や戦争や災害や病気などで苦しまないで済むように、できる限りの努力をする国です。海外の紛争・戦争に関しても、積極的に仲立ちをして、平和の維持・構築のために働く。災害への支援にも取り組む。

たとえば言えば、日の丸が、赤十字や赤新月とならぶ、赤日輪とでもいうようなイメージになれば、と思います。

世界中の人々から敬愛され信頼される国となることが、安全保障にも繋がります。

これは、私一人の個人的見解ではなく、既に55年以上も前から、日本国憲法の前文に明確に謳われています。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧

迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてみる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

そして、憲法前文は、次のような言葉で締めくくられています。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う。

しかし、現状はまったく程遠いと言わざるを得ません。日本国は、名誉にかけて達成すると誓った理想と目的を、本気で目指したことが、一度でもあったのでしょうか。

東京電力福島第一原発による災害では、国土も、世界に繋がる海も汚染させました。たくさん子ども達が、かつての基準なら考えられない高汚染地域に放置されています。そしてまた、安全基準も確立しないまま、目先の経済を優先して、大飯原発の再稼働を急いでいます。放射性廃棄物をモンゴルに捨てようとしたり、原発の海外輸出まで模索しています。

明治になって日本に組み入れられた琉球は、抑止力のためという本土の勝手な理屈で多くの米軍基地を押し付けられ、さらにまた美しい海岸をつぶして新たな米軍基地を造ろうとする動きがあります。イラク戦争に協力し、劣化ウラン弾で子どもたちが苦しめられることにも、日本は加担しました。兵器輸出の緩和さえ模索しています。

他にも、福祉を削り落として、貧困を自己責任に転嫁するなど、言い出せばきりがありません。ともかく今の日本は、誇りにできる状態から程遠いと言わざるを得ません。

しかしながら、誇りにできる状態にないから、国旗に一礼をしない、ということではありません。完璧な理想国歌家（twitter で誤字を指摘頂いた。多謝）はあり得ないでしょう。しかし、理想を目指すことはできる。しかし、そのそぶりさえ日本にはない。それが問題です。

もっと問題なのは、名誉にかけて誓った理想を足蹴にして気にもしない今の日本を、一部の人たちが、褒め称え全面的に肯定させようとしている点です。この人たちは、国旗や国歌に対する一定の態度を声高に要求し、人々をそれに従わせる空気を作り出そうとしています。

声高に主張され、人々を従わせようとする空気に従うことこそが、日本の国の足を引っ張り、誇れる国から遠ざける元凶だと思います。

人々を従わせようとする空気に抵抗することによって、日本という国はどうあ

るべきか、ひとりひとりが考えを表明し、自由に議論しあえる空気が生まれ、それによって日本は良い方向に動き出すことができるようになります。

人々に同じ空気を強制して現状のままの日本を肯定させようとする風潮に対して、風穴を開け、誰もが考えを自由に表明しあい、あるべき日本、目指すべき日本を皆で模索しあうことによって、誇りにできる日本、世界から敬愛され信頼される日本が築かれる。日本を誇りにできる国、世界から敬愛される国にするために、頭ごなしに押しつけ型にはめようとする風潮があるうちは、国旗への一礼はなるべく控えようと考えております。

<以上、初回答弁の原稿>

<一問一答のやりとりの最後（要旨）>

Q：村長は子供たちが国旗に礼をしないようになる方がいいと考えているのか？

A：教育内容について行政から口を挟むことは控えるべきだと考える。なにをどう教えるかは、教育委員会の管轄である。国旗に対して、どういう態度を取るべき、とか、取るべきでない、とか、これまでも申し上げたことはないし、今後も申し上げるつもりはない。

<新聞記者（信濃毎日新聞、長野日報）との取材でのやりとりの最後（要旨）>

Q：子どもたちには、どうあって欲しいと思っているのか？

A：いろいろな人がいて、いろいろな考え方があるのだな、と感じてもらえれば嬉しい。その上で、自分はどう考えるのか、じっくり検討して欲しい。こういう態度を取らねばならないと、ただひとつの形しか提示しないのは問題。型にはめようとするのはよくない。「まあ、この場は空気を読んでこう振る舞うのが大人だし…」というような対応を積み重ねた結果、曾て、場の空気に絡め取られ戦争に向けて後戻りできない状況に陥り、後悔したのではなかったか。どういうものであれ、自分の感じ方、思いを気安く表明できる「空気」を創っていくことが大事。それによって、互いに議論が深まり、理想の日本、あるべき日本、目指すべき日本が模索され、その結果が皆に共有されていけば嬉しい。

2012年6月12日 曾我逸郎

【6月18日加筆】

思いがけず大きな反響を呼び、驚いています。今日、朝の時点で、役場アドレスには40通のメールを頂いており、一通を除いて、すべて共感・賛同・応援でした。（一通は、「子ども達がかつてなら考えられない高汚染地域に放置されている」とは事実でない。風評被害や差別偏見を助長するので再考と猛省を…との内容⇒これへの反論は下に記載）

twitter でもフォロワーが二百数十人急増しました。フォロー即ち賛同ではあ

りませんが、多くの tweet にも、攻撃的なものはこれまで私の見た限りひとつもなく、共感の声ばかりです。

また、多くの方が軋轢を心配して下さいましたが、それも特にはありません（私が鈍感なだけ？）

地元紙の報道だけをご覧のおふたりから、私の不在中、役場に批判の電話があったそうです。

それにしても、これだけ反響があったということは、なにか変だと感じつつ、それを口にしにくいもやもやした雰囲気日本に漂っているということでしょうか。今後とも、言いたい事を言って、言いたい事を言える「空気」を生み出していきたく、みなさんお互い半歩前へ、頑張りましょう。

『「子ども達がかつてなら考えられない高汚染地域に放置されている」とは事実でない』への反論

『図解 原発のウソ』（小出裕章・扶桑社）から引用します。p63

（放射能管理区域は）子どもを連れ込むなんてことはもてのほか。私の実験着が汚れていれば、管理区域の中で捨ててくる。私の手が汚れていたら、もっと洗って、汚染を落とす。水で洗っても石鹸で洗っても落ちないなら、薬品で、手の皮が少しくらい溶けてもいいから落とさなければ、外に出てはいけない。それが放射能管理区域です。その基準はいくつかというと、1平方メートル当たり4万ベクレルです。この数値を超えて汚染をしているものは、管理区域の外側には持ち出してはいけないというのが、日本の法律なのです。もしこれを厳密に適応するなら、福島県の東半分、宮城県と茨城県の南部と北部、栃木県と群馬県の北部、新潟県の一部、千葉県、埼玉県、東京都の一部を放射線区域の管理区域にしなければいけない……途方もない規模の汚染が生じてしまっています。

# 国旗に一礼しない村長

## インタビュー

### 意見ぶつけ合わず 現実に流される国 誇りを持ってますか

入学式などで、国旗に向かって一礼する。すっかり見慣れた光景だが、長野県中川村の曾我逸郎村長はあえてそうしない。人口5千人ちよつとの小さな村で起きた論争から考えた、この国の姿は――。

――中国や韓国との間で領土問題がこじれていますね。この穏やかな村からどう見えていますか？

「人々の愛国心に火をつけて、自分の人気取りや都合のために利用しようとする人たちが問題です。日本も相手国と同じ。私たちも軽率に踊らされず、『国を愛する』とはどういうことか、こんなときこそ冷静に考えるべきだと思います」

――村長自身はどう考えますか？  
公の式典で国旗に礼をしないことについて、6月議会で答弁していましたが。

「国旗に敬意を示すというのは、国家が上であり、その下に自分がいるという問題設定です。本当の国民国家であれば、持つべきは敬意ではなく誇りであるはず。『日本は素晴らしい国だ。私は誇りに思う』というのが自然でしょう。これが愛国心だと思います。ただ、私も誇りを持ちたいとは思いますが、とてもそんな状況ではありません」

――憲法前文で『全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する』とし、『国家の名譽にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成すること』を誓ったわけじゃないですか。それをなおさらにし、周辺国の脅威をなおさら、軍事力を増強し、さらには沖縄県民が基地問題で迷惑をこうむっても我慢してもらおうという姿勢です。『そうは言っても……』と、現実を前に妥協してしまっている。問題点と理想の間をどう埋めるかという努力をしていないのです」

――より具体的には？  
「数年前、長野県の戦没者遺族大会と追悼式に参列したとき、あいさつした方々が『みなさまの犠牲のおかげで、いまの日本の繁栄があります』『恒久平和をお誓いします』といったことをおっしゃっていた。そのころは、まだイラク戦争の最中です。自衛隊派遣が問題となり、劣化ウラン弾で子どもたちが犠牲となっていました。でも、そんな話には触れない。『恒久平和』なんて、まったく上滑りな、口先だけの言葉です。その場の空気にふさわしいことばかりを考えておられるのではないのでしょうか。式典に限らず、日常の会話でも『さしさわりのない話をしておこうかな』『みたいな風潮が広がっているような気がします』  
「私が国旗に礼をしない理由を端的に言えば『こういう場では礼をしない』『それが大人だ』という雰囲気がいや、ということなんです。目に見えないプレッシャーは危険な気がします。『まあいいや、これくらい』と従うことが、いやな空気をつくり、長い目で見たら怖い結果につながりかねない。戦時中、派手な格好の人がいたら『この非常時に』と後ろ指を指していたわけですよ。でも『こういうときだからこそ、私はおしゃれるのよ』というあまのじゃくがきつといたはず。そういう存在は大事ではないでしょうか」

――村のホームページに主張を載せ、コメントも受け付けていますね。批判はありますか？  
「関東や関西など各地からメールがあり、電話もきます。提起した問題そのものについてより、むしろ『公私をわけろ』『立場をわきまえろ』といったものが多いんです。匿名が目立ちますね。国旗の件については『敬意は和を生み出す尊いもの』と書いてきた方がいました。それは、1987年に当時の文部省がつくった『国体の本義』にある『和』の考えに似ている。それぞれが身分や立場をわきまえ、分を忠実に守ることによって、美しい和が生まれると書いてあります」

――広告会社に働いていたころ、し

村議会での「国旗についての認識は？」との一般質問に対する村長の答弁（一部）  
私は、日本を誇りにできる国、自慢できる国にしたいと熱望しています。日本人だけではなく、世界中の人々から尊敬され、愛される国になってほしい。しかし現状はまったくほど遠いと言わざるを得ません。  
一部の人が、国旗や国歌に対する一定の態度を声高に要求し、人々をそれに従わせる空気を作り出そうとしています。声高に主張され、人々を従わせようとする空気に従うことこそが、日本の国の足を引っ張り、誇れる国から遠ざける元凶だと思います。人々を従わせようとする空気に抵抗することによって、日本という国はどうあるべきか、ひとりひとりが考えを表明し、自由に議論しあえる空気が生まれ、それによって日本は良い方向に動き出すことができるようになります。  
誰もが考えを自由に表明しあい、あるべき日本、目指すべき日本を皆で模索しあうことによって、誇りにできる日本、世界から敬愛され信頼される日本が築かれる。  
日本を誇りにできる国、世界から敬愛される国にするために、頭ごなしに押しつけ型にはめようとする風潮があるうちは、国旗への一礼はなるべく控えようと考えております。

### 長野県中川村村長 曾我 逸郎さん

55年長崎県生まれ。電通で営業部長などを経て、02年に退社して、中川村に移住。05年、村長に初当選。現在2期目。



長野県南部の上伊那郡にあり、中央アルプスや南アルプスに臨み、天竜川が流れる。リンゴやナシなどの果実栽培が盛ん。周辺自治体との合併の是非をめぐる、05年の村長選で合併反対派が擁立した曾我逸郎氏が当選。

――でも、他人と違う意見はそれ自体に価値がある。異なる意見はお互いに物事の見方の幅を広げてくれるじゃないですか。だから、あえて私は本当に思っていることを公言し、一石を投じているつもりです。実際、私の意見に批判的なコメントへの返事を書いていると、自らの論理の飛躍に気づき、手が止まることがあるんですよ」

――では、国に誇りを持つには？  
「先日、元・航空幕僚長の田母神俊雄さんがツイッターで『我が国では核兵器保有を訴える言語空間は閉ざされたままなんです』とつぶやいていました。私は『言語空間のせいにはせず、ご自身ががん主張されればいいのか？』とコメントを書き込みました。愚かな言説はその愚かさゆえに駆逐されるはずですから、少数意見が多数の意見かに関係ない。民主主義とはとにかく意見をぶつけ合うことです。思っていることを、だれもが本気で言えるようになったら、それだけで日本はずいぶん変わるんじゃないでしょうか。誇りを持つ国にする最初の一步だと思います」

――福島第一原発の事故を機に多くの人が声を上げるようになり、デモという行動にも出ていますね。  
「私も7月29日の国会包囲デモに個人的に参加しました。一連のデモは歴史の変わり目を示している気がします。どんな人が来ているのか実際に見て、思いを共有してみたいかったです。ただ、いまのデモは整然とすすんでいますね。本気で怒りを見せるには、もう少し『取捨のつかなさ』みたいなものがあってもいいんじゃないでしょうか」

――中川村は静岡県の浜岡原発から約100キロ。もし大事故が起きれば、村の暮らしだって根こそぎだめになります。別にせたくはできなくとも、そこそこ食べていくことができ、それぞれの人が仕事や暮らしに誇りを持ってやっていくことができ。そういう村であり続けたいの思いが脅かされる。それを阻止したいというのは、村長としての気持ちでもありません」

――広告会社に勤めていたころ、電力会社の担当になるのを断ったと聞きました。  
「入社して十数年たったころでした。原発のPRはしたくありませんと告げたら、上司が『電気を使っているのに何を言っている』『お前もサラリーマンなんだから』と言うので『じゃあ会社を辞めます』と答えました。結局、会社には残りませんが、せめて私が消費する電力のうち原発に依存する分を減らそうと、意地で階段を上り下りしていました」

――学生時代に、原発施設での被曝労働者の話を小耳にはさんでいたことが背景にあります。そんなものの宣伝をするわけにはいかないと思っただんです。誰にも、踏み越えられない一線があるじゃないですか。それをしてしまったら、自分を許せなくなってしまう気がしたんです」

――理想主義者と言われませんか。  
「それはいいですね。現実主義者とも言われません。でも、頑固だとは言われますね。自分では柔軟だと思っているんですけど」



「長野県でもオスプレイの飛行訓練計画があります。基地問題を沖縄と共有するきっかけになる」――磯村撮影

聞き手・磯村健太郎

# 反対意見と向き合う

# デモする村長



中央アルプスを背に、デモに参加する思いを話す曾我逸郎村長。長野県中川村で

中央アルプスを望む長野県中川村の曾我逸郎村長(56)のもう一つの顔は、デモに参加する一市民。政府に対し「脱原発」「TPP反対」などの異論を突きつける。国旗に礼をしないことで物議を醸し、村内外から異論を突きつけられる立場でもある。民主主義を鍛えるのは「数の論理」ではなく、少数派の異論を交えた議論。その信念が行動の根底にはある。(中山高志)

「民主主義は、みんななんかやない。デモ、滋賀県育ちの村長は、ながわいわいがやがや 参加はその第一歩」。柔らかな関西弁で話し、議論すること。上意下 長崎県・対馬生まれ、始めた。

## 必要 場 交わす 議論 村長 曾我逸郎 中川村 野長

### 眠らない秋

東京・新宿の反貧困デモに初参加したのは、四年前。効率性ばかりが追求される中、疲弊する村の農家と、切り捨てられた都会のワーキングプアが重なった。昨年二月には、村内でTPP参加に反対するデモを繰り広げた。福島第一原発事故後は、東京の国会周辺や長野で、脱原発デモに参加している。大手広告会社に勤めていた。電力担当を命じられたときには「原発のPRは嫌」との理由で断った。村の自然や風景が気に入って、十一年前に移住。合併反対運動がきっかけで出た。官邸前で市民が上げられる声に耳を傾けようと、多くの政治家は「日本の閉塞国会内での多数派工作に明け暮れる。曾我さんの目には「気候変動」

馬、二〇〇五年に初当選した。「そのころから村長は『批判をせひ言ってください』と機会あるごとに述べていた」。村職員が振り返る。就任直後、村のホームページに、それまでなかった「村長への手紙」コーナーを設けた。指定ごみ袋が破れやすいという苦情や、対策をめぐめる提案などが、内容はさまざま。大半は自ら回答し、自分に不利な内容でも公開する。

「国旗に礼をしないのことは『国旗や国歌に対する一定の態度を人々に声高に要求し、型にはめようという風潮』への危惧からという。それに『許せない。恥をかきたくなくれば、次期村長選への出馬をやめろ』という一歩進めて、市民同士の意見が言い合う場が必要と感ずる。『今、小さな見方でも、いろいろな人の考え方をくっつけたり競争したりして、深い考え方に発展する可能性は大きい』。日本の閉塞状況突破の糸口は、そこにあるとも考えている。



元教員 根本美知子さん 神奈川県茅ヶ崎

12・11・2

都、日